

大学 インタビュー 1

青山学院大学

理念に掲げた人材像の育成に向けて、 一般選抜で記述・論述式問題を拡大

2021年度、思考力・判断力・表現力を測る一般選抜へと入試改革を断行。入学から卒業まで一貫した教育姿勢で、理念に掲げた「地球規模の視野」と「自ら問題を発見し解決する知恵と力」の育成を図る。

21年度、思考力・判断力・表現力を測る入試に一般選抜を改革

青山学院大学は、1996年、自学の理念を、「地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって自ら問題を発見し解決する知恵と力を持つ人材を育成する」と明文化した。阪本浩学長は、「本学に入学してほしい学生についても、理念に掲げる育成を目指す人材像と一致している」と語る。

「高校生の皆さんには、高校時代から、人々の生活や社会について広く関心を持ち、自分が特に関心を持ったテーマを、主体的に突き詰めて学んでほしい」と思っています。さらに、学んだことをレポートやプレゼンテーションなどの形で

表現する活動にも、積極的に取り組むことを期待しています。物事を突き詰めたり、学んだことを表現したりする経験は、自分でテーマを設定して取り組む大学での研究において、必ず生きてきます」

同大学は21年度入試より、大学教育との接続を重視し、その適性を測るため、入試改革を行った。一般選抜（個別学部日程）で課す各科目において、受験者の思考力・判断力・表現力をより丁寧に測ろうと、記述・論述式問題を増やした。さらに、学部・学科によっては、多面的に思考力を測るために、教科横断型の総合問題を出題している。

「現在は、マークシート方式の一般選抜（全学部日程）も実施し

ています。この全学部日程と個別学部日程の関係については、今後さらに検討していきたいと考えています」

大学入学共通テストを利用する選抜方式では、23年度入試から、複数の学部・学科において、合否判定に利用できる科目数を、従来の3科目に加え、4〜6科目に増やした「新規科目型」を設ける。

「大学での学びを通じて、理念に掲げた『地球規模の視野』で物事を捉えられるようになるためには、高校時代に、基礎的な学力を文理の偏りなく身につける学習が大切だと考えます。そうした学習にしっかりと取り組んできた高校生を評価しようと、『新規科目型』を設定しました。合否判定に利

用できる科目数は、今後増やす方向で検討できればと考えています」

学校推薦型選抜や総合型選抜でも、受験者の思考力・判断力・表現力を評価することを重視している。「例えば面接で、海外留学先での学びを通じて広がった視野についてどうと話ししたり、小論文で、探究学習での経験を盛り込みながら論を展開したりするなど、自分なりの視点や問題意識を持っている高校生は、面接での発言や小論文の内容の質が高いです。華々しい成果のみを評価するのではなく、高校生がどんな活動をして、何を学んだのかをしっかりと見取った上で、合否を判断したいと考えています」

2025年度入試情報（*）

- 学校推薦型選抜や総合型選抜も含めて、基本的には現行の方針を継続。
- 大学入学共通テストを利用する方式や個別学力検査で、「情報Ⅰ」や「歴史総合」「地理総合」などを課すか検討中。2022年度内に公表予定。

* 2022年9月8日現在。

地理歴史科や情報科の科目を
25年度入試でどう課すか検討中

同大学が21年度入試より行った入試改革の目的と、新学習指導要領で目指すことは合致している。すなわち、新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、その評価だ。25年度入試も、学校推薦型選抜や総合型選抜を含めて、基本的には現行の方針を継続する予定だ。

ただ、大学入学共通テストを利用する選抜方式や、大学入学共通テストと個別学力検査を併用する選抜方式では、学部・学科によっては、大学入学共通テストの「情報Ⅰ」を必須科目や選択科目として新たに課す可能性があるという。また、「地理総合」「地理探究」「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」を、大学入学共通テストや個別学力検査でどのように課すかも、検討中だ。



学長
阪本 浩
さかもと・ひろし
2019年12月から現職。

「国立大学は、大学入学共通テストで『情報Ⅰ』を課すことを発表しましたが、高校現場では、情報科の指導ができる教師の確保に苦労しているという話を耳にします。他大学の動きとともに、高校現場の状況も考慮しながら、判断したいと考えています」

同大学では、遅くとも22年度中に、25年度入試の出題教科・科目を確定し、公表する予定だ。

リベラル・アーツ教育により、
多角的な視点を養う

同大学の理念は、リベラル・アーツ教育に力を注いできたことにおいても体现されている。

「問題の発見・解決に向けては、多角的な視点から物事を考え、判断することが求められます。そうしたことができるようになるためには、専門領域を深めることに加えて、リベラル・アーツを身につけることが非常に重要だと考えています」

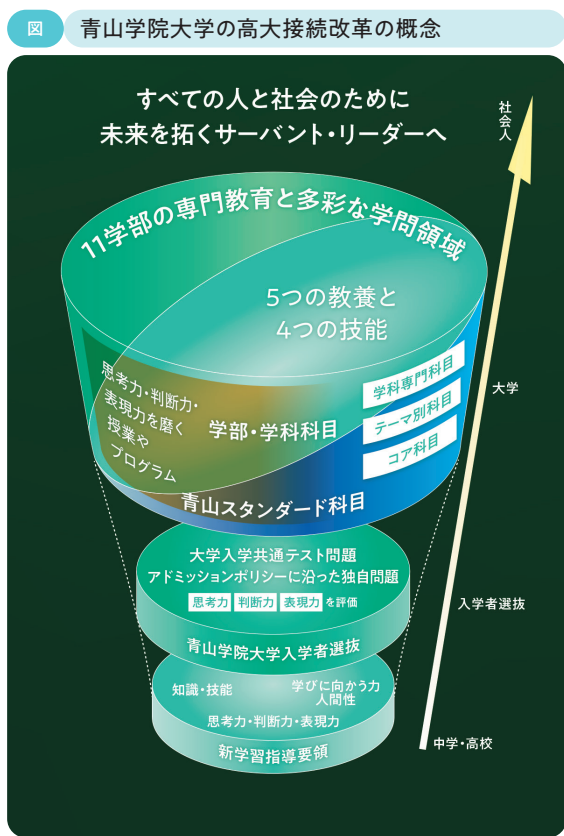
同大学のリベラル・アーツ教育の柱となるのが、全学共通教育シ

ステム「青山スタンダード」だ。学部・学科にかかわらず、一定範囲の知識・教養と、一定水準の技能・能力を備えることを目指す「青山スタンダード科目」を、全学年に設置。学生は専門科目と並行して、4年間を通して履修する。

「青山スタンダード」で重視しているのは、学生が自ら問いを立て、仲間との対話を通じて思考力・判断力・表現力を磨く活動を多く行うことだ。例えば、1年次の選択科目「フレッシュヤーズ・セミナー」は、異なる学部・学科の学

生約20人の少人数クラスで構成され、教員と学生、学生同士の対話を重視するゼミ形式で行われる。専門性が異なる学生が意見を出し合うことで、視点を増やし、異分野の他者に自分の意見を分かりやすく伝える表現力を磨く。

「広い視野や主体的に学ぶ力などは、本学が入学生に求めているものであり、本学でさらに磨くことを目指しています。入学から卒業まで、首尾一貫した教育姿勢によって、本学の理念を具現化しているのです(図)」



※大学資料をそのまま掲載。